2　初めての痛悔（続き）

(3) 自分は金を浪費し、神様と自分の父に対して罪を犯したことを悟って父のもとへ帰った放蕩息子の話

この話ではイススは放蕩息子とその父を私たちと、私たちの父である神様との関係に譬えています。

もし私たちが神のみ教えがどんなにりっぱなものであるかがわかり、私たちが神様の下さった賜物をどんなに無駄に浪費し、神様と他の人々に罪を犯したことを申し訳ないと自分を反省することが出来れば、最後は私たちは神様の子供となれることが教えられています。

私たちは父なる神様に帰り、罪深いことを痛悔せねばなりません。しかし神様は放蕩息子の父のように私たちを愛し、もとのように神の国に席を与えて迎えようと待っておられるのです。（ルカ福音15章11～32節）

(4) 公審判の話

神様は私たちが他人にどれだけの愛を示したかによって私たちを残らず裁かれます。

私たちはすべての人が心の中で、神様を見、神様を愛したいと思っているのなら、「だれにでも愛を持って近づかねばならない」と、イススは私たちに教えます。すべての友人、見知らぬ人々にさえ親切でやさしく出来る人は神の国で喜んで迎えられます。もし、私たちが他人に対して親切でないなら、神様の審判と永遠の罰を受けることになるでしょう。（マトフェイ福音25章31～46節）

(5) 神様が私たちをお赦しになられるようにお互いに赦しあわなければならないことを教えられたイススの赦しの教訓

「もしもあなたがたが、人々のあやまちをゆるすならば、あなたがたの天の父も、あなたがたをゆるして下さるであろう。」（マトフェイ福音6章14節）

この教訓は斎をするとき、人に見せつけるようなことはせず、こっそり行いなさいと教えておられます。神様はわたしたちの行いをすっかり知っておられるからです。神様の御心のとおり行えば必ず報いて下さいます。（マトフェイ福音6章16～18節）

次の5つの教訓は私たちが神様の子供として迎えられるために知っていなければならないことがらです。私たちは、

1　神様と神の御国に御一緒できるよう、自分が神の子にふさわしいものとなれるよう願わねばなりません。

2　自分の言葉、行い、心の動きをよく観察し、反省し、その罪を神様に告白する覚悟を持つことです。

3　神の国の美しさと神様の愛をよく知り、痛悔機密を受け、赦しと恵を受けることです。

4　だれにでも親切に愛をもって接しなさい。そうすれば神様は公審判で私たちを天国に受け入れてくださいます。

5　私たちが神様に赦していただきたいと思うように他人を赦し、神様の戒めに従わなければなりません。

（続く）